

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいあいの丘ふぁみり		
○保護者評価実施期間	R8年1月19日		~ R8年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	R8年1月19日		~ R8年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 2 月 16 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援・放課後等デイサービス・生活介護の多機能型事業所のため、幼児から大人までの関わりができるとともに、幼児からの継続した支援が可能。	幼児期だけ関わるわけではなく、また青年期から初めて関わるのでもなく、繋がった支援が可能となっている。他事業所や進学時の学校との連携、情報共有もスムーズに行うことができ、絶え間なく支援を行うということがしやすい環境となっている。	きめ細やかな支援を可能にするため、丁寧な記録、細かい情報共有に心がける。
2	事業所所在地と隣の町への送迎可能。	片道30分程かかるお宅もあるが、近隣の放課後等デイサービスで送迎を行っているのは当事業所だけのため、当該市と隣町への送迎を行っている。夫婦共働きのご家庭が多いため、ご自宅への送迎は必須である。運転手を複数名配置していること、生活介護の職員と兼務の職員がいるため、生活介護の利用者様と共に送迎するなど、臨機応変に対応している。	できる限り保護者の勤務の都合などを考慮し、送迎時間の調整を図っていく。
3	急な事態など、柔軟な対応が可能。	NPOの活動として、有償ボランティア活動もおこなっており、ご家族等の急な事態に迅速に柔軟に対応を行っている。様々な相談に応じることができる体制がある。	保護者などの緊急事態や急な予定変更など、より迅速に柔軟に対応できるよう、体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別の部屋の使用が難しい。	生活介護との多機能型事業所であり、構造上個別の部屋の使用が困難。	パーティションやポップアップテントの使用、事業所敷地内の小庭で過ごすなど、状況に応じて個別に対応が必要な際には様々な工夫をして対応する。
2	活動プログラムの立案が弱い。(特に集団活動プログラム)	設備・スペースの基準は満たしているが、生活介護との多機能型事業所のため、集団活動を行う上では困難なことが多い。また、個別活動を行う際にも個々の活動を保障する環境の確保が困難な状況の時もある。	他事業所や全国の取り組みを参考にしたり、情報誌の活用、研修への参加など、色々な活動プログラムを検討し取り組んでいく。 パーティションの活用など、それぞれの活動に応じた環境づくりを考える。
3	地域の他の子どもと活動する機会が少ない。	過去に放課後児童クラブとの川遊びを企画したが、一部保護者などから理解を得ることが難しく、その後は取り留めずにいる。地域の保育園や学校からの訪問で来ていただいたりした際には積極的に参加しているが、こちらから出向くには移動手段、車椅子使用など困難なことが多い。また、マスクの着用が困難な児童が多く、コロナやインフルエンザなどの感染予防の観点から、交流が困難なこともある。	交流の方法や関わり方など工夫し、理解を得られるような取り組みが必要。 感染予防については、十分に配慮しながら交流を図れるよう検討したい。